

今売れている! 人気教授の本

自著『国家の品格』を語る 藤原正彦 理学部

小学校の頃より、クラス中の生徒、学校中の生徒から追いまわされる夢をしばしば見た。中学、高校、大学となってもそんな夢をよく見た。原稿を書いて主張することの多くなったここ20年ほどは、日本中いや世界中の人から追いまわされる夢をよく見る。皆に追いまわされ、屋根裏にかくれたり床下にかくれたり、川の中にもぐったり高い木に登って幹や葉に身を隠したりする。それでも逃げ切れず、ついには捕まり、さてとどめを、という一瞬に目がさめる。冷や汗で身体はびしょりである。私を助ける者は誰一人いない。時には追手の中に女房の顔が混じっていることさえある。

皆に愛されたいと願いながら、皆に嫌われることしか言わない、という屈折が私にはあるようだ。「国家の品格」ではこともあろうに、自由、平等、民主主義、そして国民までを厳しく批判した。タブーに触れたのだから日本中世界中に総スカンを食うだろう。その時は文筆を折り数学に戻ればよい、と思っていた。

それがベストセラーとなった。この騒ぎはもう沢山だ。執筆、インタビュー、講演、ラジオ、テレビと、毎日10件ずつ断っているうちに、美しい顔が、みるみるいじわる顔になってきたからだ。



藤原正彦 著『国家の品格』
(新潮社/2005年/680円)

「ツチャ教授の哲学講義」 土屋賢二 著

土屋賢二氏(文教育学部)へのインタビュー

Q: 今話題の本『ツチャ教授の哲学講義』の元になった授業は、何年度で、科目は何ですか。

A: 2004年度の「哲学概論」です。

Q: 本書には、先生の本ではおなじみのH先生がたびたび登場しますが、実在の人物ですか。

A: 実在です。実在しすぎています。エッセイでも嘘は書いていません。

Q: 本書には、「 $2+3=5$ 」という数式が頻出しますが、何か由来があるのですか。

A: 5以上の足し算ができないのではなく、だれもが同意する例として使っています。これまで反論が出たことはありません。

Q: 最終回の講義では、「いかに生きるべきか」とか、「何が一番価値があるか」といった問題を哲学的に解決することはできない、と述べておられます。学生に対するメッセージは何でしょう?

A: 壁に好きな色を塗ることは、決められた色を塗れという命

令に従うこととは違います。「生きる」「選択する」というのは、どこかに正解があってそれをなぞることとは根本的に違います。これをちゃんと論証するのは簡単ではありませんが、そういうことを伝えたいと思っていました。(文責: 宮尾正樹 文教育学部)



土屋賢二 著『ツチャ教授の哲学講義』(岩波書店/2006年/1,800円)